

週日の説教

金 大烈 神父 2011年5月11日(水)

《命のパンであるイエス様》

ある人が、大金持ちになったある人に質問します。あなたがこのように沢山のお金を儲けた条件とか理由があれば、それを三つぐらいに分けて話してくれませんか。彼によるとこのようなことでした。一番目は運でした。二番目も運でした。そして三番目も振り返ってよく考えてみても運でした。これはどういう意味でしょうか。その人が何もしなくても、ただ運がよくて金持ちになったのでしょうか。

実際にアメリカのスタンフォードという大学で調査が行われました。いわゆる経済的に成功したと言われている1000人の人々を対象として、アンケートを取ったそうです。その中で75パーセントとの人々が同じように運でしたと答えたそうです。人々は「考えてみても運が偶然に訪れて来て、私はその運に助けられてこのようになりました。」という結論でした。

この話は、皆様がどの様に考えるか分かりませんが、この調査の結果として私達が考えるべきことは運に任せるということではありません。逆に考えてみましょう。信仰の教えを私達は毎日聞いています。神様の愛、永遠の命のパン、イエス様にどのような心で近づいたらどのような結果が出るかと、数え切れないくらいに聞いています。しかしその話を聞いて、感謝の信仰の生活、本当に喜びの信仰の生活する人々は何割ぐらいになるのでしょうか。金持ちになることと、信仰的に深い味を味わうことと、全く同じことではないでしょうか。

私達はいつも素晴らしい人々との関わり、いつも誰かによって私は支えられて、このように生きていること自体を意識していません。大体が自分の力によってやって来たと思っているわけです。ですから私達は金持ちになれなかったのかも知れません。誰かによって支えられている。特に私達は、信仰の中でイエス様がいつも御言葉を通して私達を慰めているのに、励まして下さっているのに、全然慰められない、励まされないと文句ばかり言っています。いつも否定的にこの世を見ながら、どうすればいいか、どうすればいいかと叫んでばかりではないでしょうか。

運という言葉の中に隠れているのは、耳をどのくらい傾けているのか、目をどのくらい注いでいるのか、自分に与えられている色々な全ての条件、環境をどのように読もうと頑張ったのか、真の意味は何だろうか、それをよく把握しようと頑張った人々に与えられる贈り物ではないかと思います。

皆様、“命のパンであるイエス様”よく聞いた話です。そして私達はミサに与れば御聖体をいつでも頂けます。しかし私達がミサに与り、御聖体の計り知れない尊さ、それをどのくらい感じながら感謝の心で御聖体を頂いているのでしょうか。平和の挨拶を、相手にどのくらい感謝の情を感じながら、その挨拶を交わしているのでしょうか。

よく考えてみますと、私達が立派な信仰者になるには、やはり自分自身にかかっています。自分がどのような目で、どのような耳で、どのような心で、この信仰を理解しているかによって、私達は信

仰が段々深められ成熟した道にいるのか、そうではなくて、いつも同じところで同じ歩き方をして、そのまま止まっているかが決まるのではないかと思います。

今日、“命のパンであるイエス様” そのイエス様と係わったら“永遠の命”が与えられる。その真の意味が何であるか黙想が出来る恵のミサになって頂きたいと思います。

ありがとうございます。